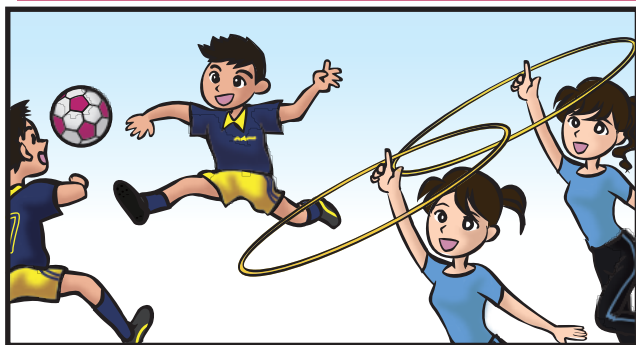
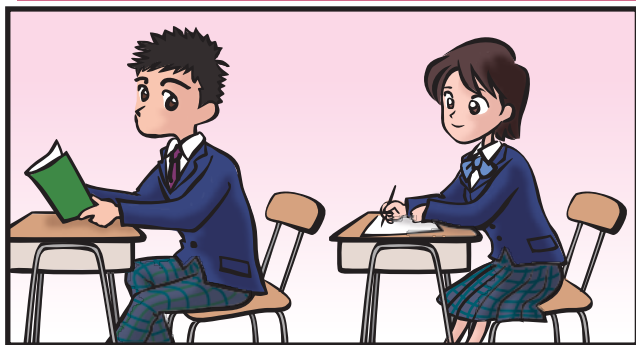
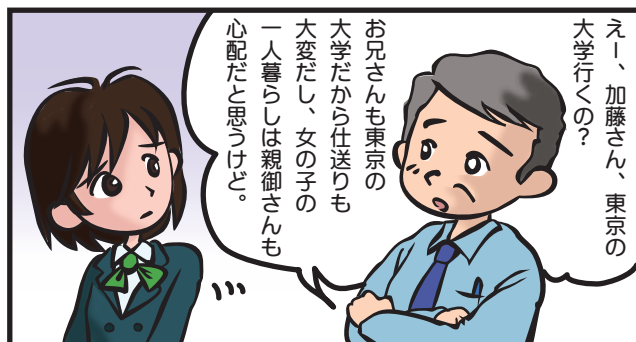


これってジェンダー平等ですか？

学校編 ？

ある学校でのシーンです。
ちょっとヘンだと思いませんか？



これってジェンダー平等ですか？

学校編 解答例



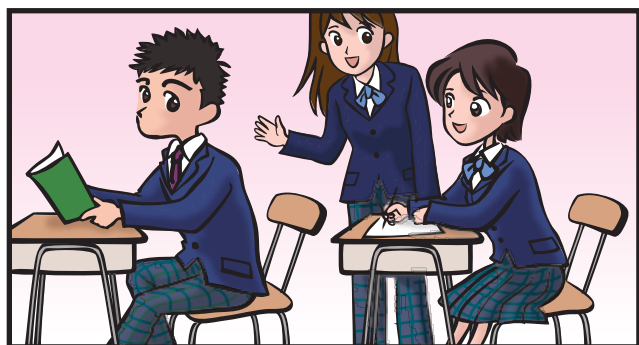
■女の子は地元に進学すべき？

地元の大学に行くか、都会の大学に行くかは性別に関係なく、学部や希望で決めたいですね。勿論経済的な事情も考慮する必要がありますが、女の子は地元で我慢しなさいと言うのはおかしい話ですね。



■性別と文系・理系は関係あるの？

進路選択に、性別は関係ないですね。でも高校の先生や周りの大人たちは自分のジェンダーイメージに従って、アドバイスしてくるかもしれません。女の子も男の子も、自らの意思で、それぞれの希望の進路を開拓していきましょう。大人たちも、ジェンダー意識から自由になって、応援してあげましょう。



■どうして、制服がちがうのかな

制服が男女で違う中学や高校は多いですが、女性の制服の中にはキュロットスカートやパンツもある学校もあります。性別違和感に悩む人の中には、制服がとても苦痛な人もいます。個人の幸福追求のために、考えていかなければならない問題ですね。

小学校では男女で帽子を変えているところもあります。かつては、小学校の体操服が男女でまったく違いましたが、昨今では同様のところも増えてきています。



■校長先生は男性？

小学校の先生は女性の方が多いのに、管理職は男性の方が多いのは変ですね。子どもたちは、日々その情景を見ているわけですから、これは、女性のリーダー性の養成に影響する「隠れたカリキュラム」であると言わざるを得ません。女子児童へのロールモデルの提示という観点からも、問題でしょう。



■部活は男女別なの？

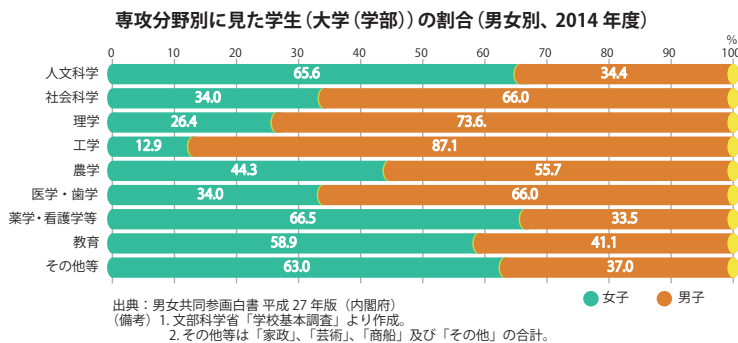
学校での部活動においては、男女別の部構成になっていたり、女子のみの部活動や男子のみの部活動が存在しています。女子差別撤廃条約の第十条の(g)において、「スポーツ及び体育に積極的に参加する同一の機会」が掲げられています。男子と女子のどちらかしか参加できない部があるということは、これに抵触する恐れがあると言えるでしょう。

これってジェンダー平等ですか？

学校編 解説

関連する法令やデータから、さらに解説します。

高等教育における男女平等



2014 年度の学校種類別の男女の進学率を見ますと、高等学校等への進学率は女子 96.9%、男子 96.1%と女子の方が若干高くなっているものの、大学(学部)への進学率は男子 55.9%、女子 47.0%と男子の方が 9%程度高くなっています。女子は全体の 9.5%が短期大学(本科)へ進学しており、これを合わせますと、女子の大学等進学率は 56.5%となります。また、大学(学部)卒業後、直ちに大学院へ進学する者の割合は、平成 26 年度では男子 14.8%、女子 5.9%となっており、大学院、大学(学部)と高等教育になる程男子の方が多く進学していることがわかります。

専攻分野の偏りも大きく、図に示されているように、工学系は圧倒的に男子に偏っている傾向にあります。「リケジョ」の活躍が期待されているところではありますが、「リケジョ」の卵が少ないということでしょう。

教員の男女平等参画

文部科学省の学校基本調査によりますと、2015 年の女性教員の割合は過去最高の割合で 50.6% に達しましたが、管理職の割合はこれも過去最高の割合であるものの、24.9%にとどまっています。教育内容のみならず、子どもたちは、日々の暮らしの中で多くのことを学んでいます。女子児童・生徒が、女性のリーダーというロールモデルを目にする機会が少ないということは、女子児童・生徒のライフデザインに与える影響が大きいと思われます。

隠れたカリキュラム

女子差別撤廃条約を批准するにあたり、カリキュラムの平等化がなされ、技術・家庭科の共修は実現したものの、成文化されていない、いわゆる隠れたカリキュラムの存在が指摘されています。学校における慣習・慣行の中に不必要な男女の区別が存在し、それらが男女平等教育の妨げになっているというものです。前述の教師の側の性別意識や、指導的な立場にある教員の男女バランスの悪さもさることながら、教員の「男だろ、女のくせに」などの何気ない一言が児童・生徒に与える影響は多大ですので、教員に対する男女平等参画参画の研修が必要です。

服装・持ち物の男女平等

体操服・ランドセル・制服の男女の色別についての見直しも議論されてきました。ランドセルについてはカラフルなものが増え、かつてのような男女の二分法は見られなくなりつつあります。体操服についても、女子生徒のブルマーは廃止傾向にあります。制服についても、女子の制服にキュロットスカートやズボンを選択することができる学校も増えてきました。これは、女子の活躍のためというだけでなく、性同一性障がいを抱える児童・生徒への配慮としても評価できます。